

都道府県番号	41
都道府県名	佐賀県

学力向上推進地域名及び学校数、学力向上フロンティアスクール数

学力向上推進地域名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
佐賀県学力向上推進地域	176校 (20校)	96校 (16校)	272校 (36校)

学力向上推進協議会（地区別協議会）の設置数及び域内の学校数

地区協議会は設置せず、佐賀県学力向上推進協議会において、全体会及び校種別部会、地区別部会を開催した。

都道府県教育委員会としての支援策

<p>1 域内の各小・中学校に対して</p> <p>(1) フロンティアスクールに対して、研究の計画・実施等についての指導・助言</p> <p>(2) フロンティアスクールで行う授業研究会における指導・助言</p> <p>2 実践研究の成果の普及の方策の構築</p> <p>(1) 各フロンティアスクールにおいて、年2回以上の公開授業研究会の実施 ・開催回数：88回</p> <p>(2) 平成15年度学力向上フロンティア研修会の開催 期日：平成15年8月22日（金） 内容 ・県教育庁学校教育課長あいさつ ・フロンティアスクールにおける実践発表 ・鹿島市立明倫小学校 ・佐賀大学文化教育学部附属中学校 ・講演「対話を通して育む力」 ・講師：長崎大学教育学部教授 村田義幸 ・学力向上フロンティア事業の概要説明 参加者：県内全小・中学校から1名以上の教職員、指導主事及び保護者等 計387人</p> <p>(3) ホームページによる情報提供 佐賀県教育委員会のホームページ上に学力向上フロンティアのページ作成 ・各フロンティアスクールの主な研究内容等 ・各フロンティアスクールにおける公開授業研究会の日程 http://www.pref.saga.jp/kyouiku/gakkou/gimu/frontier/frontier-02.htm 各学校のホームページ上に学力向上フロンティアのページ作成 ・研究主題、研究内容、研究実践等 ・公開授業の指導案、研究協議会の要約等</p> <p>(4) 中間報告書冊子の作成 ・各フロンティアスクールの実践及び成果と課題 ・県内全小・中学校に配布</p>
--

学力把握のための都道府県としての取組について

- 1 平成15年度学習状況調査に係る地区別研修会の実施
 - (1) 目的：平成14年度に実施した学習状況調査の結果の状況及び課題について周知を図り、学力向上に向けて指導方法の工夫・改善に資する。
 - (2) 方法：県内5教育事務所別に開催し、全小・中学校から校長または教員1名及び各市町村教育長が参加
 - (3) 内容：佐賀県学習状況調査結果に係る概要説明及び質疑応答
- 2 公立高等学校入学者選抜学力検査（後期試験）の結果分析
教科別に分析し、まとめたものを県内全小・中・高等学校に配布

学力向上推進協議会について

(1) 開催時期及び参加対象

- 第1回
- ・期 日：平成15年5月1日（木）
 - ・参加者：県教育庁学校教育課長、参事、指導主幹、指導主事、各教育事務所指導主任、各フロンティアスクール校長及びフロンティアティーチャー

- 第2回
- ・期 日：平成16年2月13日（金）
 - ・参加者：県教育庁学校教育課長、参事、指導主幹、指導主事、各教育事務所指導主任、各フロンティアティーチャー

(2) 協議会の主な内容等

- 第1回
- (趣 旨)
- ・学力向上フロンティア事業の趣旨の理解のうえに、実践研究の推進にあたり県内小・中学生の学力向上に資する。
- (主な協議内容)
- ・学力向上フロンティア事業についての説明
 - ・事業概要について
 - ・学力のとらえ方について
 - ・実践研究の成果の評価方法について
 - ・実践研究の成果の普及方法について
 - ・佐賀県学力向上フロンティア研修会について
 - ・岐阜県海津町立高須小学校の実践事例の紹介
 - ・静岡県富士宮市立富士宮第四中学校の実践事例の紹介
 - ・校種別協議会
 - ・継続校から1年目の成果と課題について発表及び協議
- (協議会の中で報告された内容)
- ・学力の伸びをどのように測るかが難しい。
 - ・思考力をどのようにとらえ、どのように見取るか。
 - ・少人数指導に関わって、打ち合わせの時間の確保が難しい。
 - ・評価活動をどのように生かすか、工夫が必要である。
 - ・各校が2回の公開授業を実施すれば、回数が多すぎて他校からの参加が難しくなるのでは。
 - ・先進校の情報を提供してほしい。
 - ・各校がお互いに資料の交換など情報交換を進めるべき。
 - ・「工夫してほしい」と言われるが、例を示してほしい。
 - ・新規校は、継続校の研究成果を踏まえて研究推進を。

第2回

(趣旨)

- ・本年度の研究の成果と課題を、次年度の研究推進に生かす。

(主な協議内容)

- ・平成15年度の成果と課題について

- ・平成16年度の実施について

(協議会の中で報告された内容)

【成果】

- ・小・中連携で個人カルテを作成し、活用している。児童生徒のつまづきが把握でき、指導に生かすことができる。

- ・少人数指導については、児童生徒・保護者からもおおむね好評である。

- ・NRTやCRTの結果から、学力が向上していると判断される。

- ・学習への取組が意欲的になってきた。学び方が身についてきた。

- ・算数を「好き」という児童が増えてきた。

- ・職員の意識改革が進んできて、児童生徒の学力向上につながっている。

【課題】

- ・NRTやCRTの実施時期

- ・コミュニケーション能力育成の手だて

- ・小・中連携教育の推進

- ・保護者や地域との連携

- ・公開授業研究会の在り方

実施計画書において示した「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

事業評価の実施方法・内容

- 1 各学校が作成した計画書や研究実践後に提出を求める報告書、指導主事による学校訪問等により、各学校の実践についての評価と指導を行う。
- 2 各学校において公開授業を中心とした研究会を開催し、多くの学校に参加を呼びかけて、研究成果の普及や活用を図る。
- 3 県内の優れた実践研究について、校種ごとの部会や全体会だけでなく、機会をとらえて提示し、各学校において自校の実態を踏まえ、創意工夫した研究実践が進むよう指導していく。
- 4 フロントティアティーチャー研修会を年2回実施し、各学校の取組状況、成果・課題等について情報交換を行い、協議することにより、フロントティアティーチャーの養成を図る。
- 5 校種によって異なる課題については、校種ごとの部会の中で指導・助言をし解決を図る。

進捗状況（成果及び課題等）

- (1) 各学校が実施する公開授業研究会に指導主事が参加して、各校の取組状況を把握するとともに、研究内容、研究方法等について指導を行った。児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせるための指導方法の改善が進められていると考えている。
- (2) 各学校が公開授業研究会を実施し、研究成果の普及に努めた。
 - ・実施延べ回数 88回
 - ・他校からの参加者延べ人数 3109人
 - ・保護者、学校評議員の参加者の部人数 828人
- (3) フロントティアティーチャーは、県教委主催の学力向上フロントティア研修会や市町村教委主催の教育研究会等の研修会において、自校の研究について報告したり、他校の研修会で講師を務めるなど、成果の普及に寄与している。